

リニアは夢の乗り物か？

ストップリニアニュース No.49

発行：2018.9.15 リニア新幹線を考える相模原連絡会 <http://sagami-hara-g.mond.jp/>

土砂災害警戒区域・串川洪水想定区域でのリニア車両基地建設の計画 市民の生命、財産は守れるのか

リニア新幹線を考える相模原連絡会は、6月13日、加山 俊夫市長に、「土砂災害警戒区域、串川氾濫区域に指定されている鳥屋でのリニア車両基地計画は、串川沿川住民の生命、身体に重大な危害が生じる恐れがあることは明らかであり、車両基地建設計画は、再検討する事」と4項目の質問書を提出しました。

これに対し、市長は
「適切に行われている」と回答

リニア車両基地が計画されている鳥屋地域は、台風時は護岸いっぱいの水位、道路が冠水したこともあります。「車両基地で河川の水量が増えて危険性を高める。言語道断だ」（住民の声）

鳥屋在住の栗原晟（あきら）さんは、リニア計画を認可した国土交通大臣に対する、異議申し立の意見で、「自然を削ったコンクリートのかたまりの車両基地は降雨を吸収しない、JR東海は、河川は県、市の管理、県、市の指導を受けるから心配ない（事業説明会での回答）としているが、無責任な回答である。7月の西日本豪雨災害は甚大な被害をもたらしたが、自然現象に加えて、車両基地が人工的に水量を増やすことは、危険性を高める。」と批判します。

リニア新幹線に関する公開質問書について回答
平成30年6月29日 相模原市長 加山 俊夫

リニア中央新幹線の建設にあたりましては、「JR東海により法手続、行政上の手続きが適切に行われるものと認識しております。
関東車両基地につきましては、現在、「JR東海により計画地の地質調査が行われており今後、それに基づいて施設の設計が進められると伺っております。
市といたしましては、車両基地建設計画の内容把握に努めるとともに、特に、住民の皆様への安全対策について「JR東海と協議してまいりたいと考えております。」

鳥屋トラスト地「森カフェづくり」作業再開します

11月3日（土）9時
鳥屋渡戸自治会館前集合

作業内容＝伐採・皮むき・製材・床張りなど

JR 橋本駅からの送迎など詳細はお問合せ下さい。
＜問合せ＞042-689-2142（河内）
090-8116-8088（松本）



今年4月の作業風景



「日経ビジネス」でリニア新幹線の特集

日経ビジネスは8月20日号で「リニア新幹線 夢か悪夢か」と題した特集を組み、「第3の森加計問題として安倍「お友だち融資」3兆円」など安倍首相と葛西 JR 東海名誉会長との親密な間柄などについて詳しく報道しています。リニアの建設を「だまって見過ごすわけにはいかない」と怒る川勝静岡県知事の批判や、「リニアはコンコルドと同じ」と喝破する橋山禮治郎アラバマ大名譽教授の意見、相模原では橋本駅周辺でJR東海が巨額のマナーで路線の住民を買収している実態や、鳥屋の「森カフェ」トラストの取り組みも紹介しています。

意見陳述で多くの問題点が指摘されました

中央新幹線品川・名古屋間の工事实施計画（その1）の認可申請に係る異議申立人の
国土交通省への口頭意見陳述が7月末から実施されました

2014年12月16日に5,048名が国交大臣に異議申立てを行い、
今回「口頭による意見陳述の申し出をした一部に対し、突然「日
程調査表」が送付され、その後、「口頭による意見陳述の機会付与
について」の通知が石井啓一国土交通大臣名の配達証明で各自に
送られてきました。30分の意見陳述を行った方の感想や陳述内容
をご紹介します。

意見陳述を終えて

「これは誰に届くんでしょう？誰が読むんですか
ね」。たっぷり時間いっぱい、ふらふらと彷徨って行
き来する私の言葉を、3人の若い方が熱心にメモに
落としながら全身で聴いてくれた。

私如きの小さな呟きで魑魅魍魎たる為政者やら財
界やらの悪戯（わるさ）に一石も投じられないと思
う。それでも彼の戦争で口を噤んだ大衆と同じ轍を
踏みたくない。だからここへ話しに来たと伝えた。

メモから目を上げて聴いてくれた彼の目を信じたい。
一人ずつ分かりあっていくしか手はないと。歯
が立たない運動と思うと放り出したくなるけれど、
目の前の一人に真剣に思いを伝える努力ならでき
る。私の言葉から何をどう拾ってくださるだろうか。
渦中に揉まれて流されて仕舞わずに踏みとどまって
考える51人目が増えてくれたら嬉しい。

（篠田智子）



意見陳述の行われた国土交通省入口

多くの問題点、認可取り消せ

リニアだけ、すぐに認可したのはおかしい。
水枯れや廃水の流出と水源保全の危機・土盛りす
る膨大な残土と豪雨災害・地震と活断層・未解決
の電磁波・歴史（相原高校）と小倉橋の景観喪失・
莫大な建設費・何本もの立杭とトンネルは自然破
壊（小島）

リニアよりもバス交通を

市民にとって、最も喫緊の問題は、身近な
「バス交通」です。
無謀な工事で「地下水」への影響も心配。
「水」を第一にした生業、食の安心安全を脅か
す愚行、後世に莫大な借金を背負わせるリニア
新幹線工事は即刻中止すべき。（濱田）

破綻したJR東海の論拠

○JR東海の二重化・スピード化論は破綻してい
る。○自民党の国土強靱化リニア計画は、国土破
壊計画である ○立退き・トンネル真上等850
人近くの直接権利者の生存権が奪われる ○90
余年の歴史ある県立相原高校の強制移転は国策リ
ニアが教育破壊、緑の環境を破壊してまちを壊
し、人間を追いつめる不当なものである。（浅
賀） ○相模原市は豊かな水源地であり、その環
境をリニア計画が破壊していく。地層へのリス
クも大きい。（河村）

5つの理由により反対

- ① 大義がない
- ② リニアより在来線の地震津波対策を
- ③ 甘い需要予測と膨らむ経費で大きな国民負担
- ④ エネルギー浪費の乗り物
- ⑤ 安全性への大きな不安。さらに相原高校の移転や藤野菅井地区の井戸に影響・残土搬出ダンプと狭い生活道路など住民の不安など（戸田）

住民投票で賛否を問え

橋本の100年を見つめ続けた相原高校のクス
ノキの創作童話を朗読。水源地鳥屋に車両基地を
つくるなどリニアは自然や人の営みに対する冒瀆
だ、国交省は将来的に責任がとれるのか、と訴え
た。巨大事業は事前に住民投票すべき。（吉田）

青山斎場計画

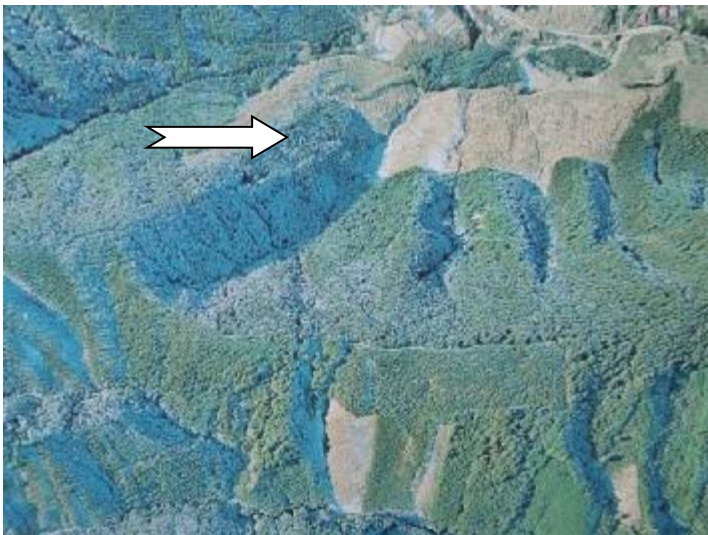
鳥屋・南山の現地調査会開催

緑区未来の会・リニア相模原連絡会

8月20日リニア連絡会と緑区未来の会は合同でリニア、青山斎場計画が進められている南山一帯の現地調査会を環境地盤研究所の徳竹先生を招いて開催した。

この日参加したのは、リニア相模原連絡会から4人、未来の会から小島会長ら2人の参加で串川地域センターから串川沿いに鳥屋に入り、関東大震災で山津波のあった馬石地区から宮ヶ瀬湖をへて東南林道に入り、急峻な林道、崩れ地などを視察、串川地区の歴史を研究しているメンバーらから詳しい説明を聞いた。

斎場候補地となっている帝京大学青山グラウンドは旧相模湖町に建設された大学校舎造成工事の残土が搬入された行き止まりの林道400m先の造成地で、「大学のグラウンドと言えは聞こえはいいが、実際は残土捨て場を造成したに過ぎない。」などと、説明を受けた。



1974年の熊の平（帝京大青山グラウンド）
上部中央がグラウンド建設の場所

徳竹先生は造成前の航空写真を提示して「ここには三つの沢が集まっている。沢から押し出した土砂によって緩やかに斜面ができた扇状地に造成工事が行われたのだろう。詳しいデータの分析をしてみないと何とも言えないが、海底火山である丹沢山塊の形成と大きくかかわりを持っている。市が何を根拠に数万年大規模災害なし、としたのか問題がある。この付近は今もプレートに押され、わずかに動いている。とても安定している地盤とは言えない。急峻な林道直下は危険な所」と話された。

崩れやすい東南林道

串川の南にある南山、鳥屋地区の東にある東山。同じ山だが違う呼び名があり、両方の頭文字をとって東南林道と名付けられたが、上部は35度の傾斜がある急峻な場所。

関東大震災では丹沢山の約20%、6000haが崩落したと県砂防史は伝え、500m先の馬石地区では、地すべり性崩落が起き、串川を堰き止め、近隣の串川村、青野原村、宮ヶ瀬村から述べ千人が救助と土砂撤去の救援に従事したと津久井町郷土誌は伝えている。

ここもその時に？

約6kmの林道、手入れは行き届かず草木が覆い、野獣の進入を防止する電気柵も使用不能状態だった。

（未来の会 津久井 守）



県が整備した東南林道の砂防堰堤

「中央新幹線国道16号交差点トンネル新設工事」説明会



JR 東海・(株)奥村組の工事説明会が開かれます

予約不要

説明内容：

事業概要について、 工事概要について
工事用車両の運行計画・安全対策、環境の保全

日時： 9月22日(土) 19:00(開場 18:30)
9月27日(木) 19:00(開場 18:30)
会場： いずれもサンエールさがみはら ホール

小倉自治会、リニア小倉地区対策委員会

神奈川県・相模原市・JR 東海に要望書を再度提出



日照障害に関する説明図：「要望書」より抜粋

小倉自治会、リニア中央新幹線小倉地区対策委員会は、平成26年に共同で出した20項目にわたる要望書についての協議を、神奈川県・相模原市・JR 東海と繰り返し行ってきました。

河原橋の掛け替えや、付け替え道路の設置などの小倉自治会からの要望を議会で検討・承認していくためには測量が不可欠とのことで、小倉自治会は平成28年に中心線測量を認めました。その後、用地測量が進み、戸別交渉が始まろうとしています。要望事項に対しては形ある回答は出されていません。そこで、自治会は先日7月13日に改めて要望書を提出しました。

現在、JR 東海は相模川橋梁・高架橋・変電施設の概略設計を行っています。自治会では、その中間報告と要望書に対する回答を求めて、秋に説明会をと要請しましたが、その時点では「形あるものをお示しすることができないので、来春概略設計完了後に工事説明会でお示ししたい」(JR 東海)とのこと。橋脚をアーチ状にとか、防音防災フードが付かない開口部分の騒音対策、変電施設の10メートルの盛り土した上に17メートルの建物の低減化などの要望がどう検討されているか、自治会では年内の説明会開催を求めて行くようです。

(小倉在住 若杉)

高級住宅街、田園調布の下をリニアが通る！

リニアは有名な住宅街の下であっても、かまわず通ります。多摩川に面している大田区田園調布でも、田園調布駅、田園調布教会の近くを通り、多摩川へと地下70m~90mを進みます。そして多摩川の下の70mを通過します。首都圏では、品川から町田街道近くまで「大深度」といわれる地下40mより深い場所にトンネルがつけられます。大深度法が適用されれば、トンネルの上に土地を持つ人の許可がなくても、トンネルを掘ることができます。トンネル上に住む人には何の補償もありません。

JR 東海は今年3月、国に対し「大深度地下使用・申請書」を提出。5月には、その説明会を開きましたが、JR 東海はトンネル上の人に対し、説明会の案内ちらしを配布せず、説明会への参加が少ないまま行いました。そこでリニア連絡会などが独自にルート地図入りのちらしを配布し、お知らせしたところ、会場に入りきれないほどの参加があったそうです。これをきっかけに田園調布でも、住民が集まろうという動きが出てきています。認可から4年、今リニアの問題点に関心が集まっています。(河村)

お願い

★ 活動はみなさまのカンパで維持しています、ぜひご協力をお願いします。
郵便振替口座：00240-7-71305 口座名：リニア新幹線を考える相模原連絡会

発行者：代表 浅賀きみ江 相模原市緑区東橋本 2-6-2 携帯 090-4378-9257